

佐久で協会設立 加瀬さん

認定30年超 2700件

1年を通じて多彩な「〇〇の日」「記念日」がある。その認定と登録は一般社団法人日本記念日協会（佐久市）が担う。30年以上にわたり続けてきた代表理事の加瀬清志さん（70）は活動を次の世代へバトンパスする決意をしている。

社会的な文化創る 「記念日」次世代へ



2月2日の「No.2の日」登録証を掲げる関係者とオンラインで参加した加瀬清志さん（右）。モニター画面の後ろの写真は、富士山に次ぐ標高2位の北岳＝2022年2月22日、山梨県南アルプス市

加瀬さんは20代後半から、東京で放送作家をしていた。番組のネタ探しをする中で、記念日を思いついた。図書館に通って、記念日について調べていくと、情報が間違っていることが少なくなかった。

日付がずれていたたり、記念日の名称が間違っていたり。データベースもなく、「それならば自分で調べよう」と考えた。子どもを自然豊かなまちで育てたいという思いから浅間山のふもとにある佐久に移住し、1991年に協会を発足させた。

当時から記念日を「日付のある文化」として根付かせたいと思っていた。

例えば、「Jリーグの日」は5月15日。リーグは1993年のこの日、東京・国立競技場で幕が開けた。20周年の13年に記念日として登録された。

加瀬さんの考える記念日の役割はこうだ。

昨年30周年を迎えた「歴史」がある。試合に関するものなど様々なデータが記録される「真実」がある。正しい真実でない文化にはならない。メディア報道という「表現」がある。

このようにして「歴史と真実と表現が積み重なったときに文化になる」という持論がある。そして、記念日によって関心が高まり、由来や何をもたらしたのかを多くの人が知りたくなる、と考えている。

これまでに記念日は約2700件にのぼり、この3年は新規登録が年200件を超える。「少ないコスト（登録料は1件15万円）で高いPR効果が得られることが伝わってきたからだ」と思う。記念日は「人と人」「人と物」「人と出来事」がつながるきっかけになり、記録に残る。

2011年の東日本大震災を機に地方でも関心が高まった。コロナ禍では、自宅で過ごす時間が増え家族のつながりが注目されたこともあり、感染症対策や家族写真と関連のある記念日の登録が相次いだ。

ただ、加瀬さんにとって単に記念日の数を増やすことが目標ではない。「その記念日が世の中に必要なのか、明るくするのか、ビジネスチャンスを生み出すのかの視点で審査をしてきた」と振り返る。

最近若い感性を生かした企画が不足していると感じる。記念日を映像化する、あるいは社会問題を解決するといった動きが必要だと考える。

昨年2月、70歳を迎えた。代表理事の引き際も考えるようになった。いま、公募して手助けのあった「後継者候補」に仕事を教えながら活動している。ビジネス機会だけでなく社会的な文化を創る活動が大切だという理念を理解できる人という視点で選んだという。

立場を離れたら、やりたいたいことがある。「好奇心を持って色々な所に出かけて、色々な話をして、記念日の日の物語を書いて映画にしたい」

点字ブロックの日（3月18日）をきっかけにした映画「見えないものから見えるもの」のシナリオを書いたときに楽しかった経験がある。

そして、「2035年4月7日まで元気でいたい」とも語る。加瀬さんが「生誕3万日」となる日だ。82歳で迎える1日が自らにとっての記念日になりそう

（八鍬耕造）

主な記念日

- 1月9日 一番くじの日
外れなしのキャラクターくじ。一番（＝1月）とくじ（＝9日）の語呂合わせで、2024年の制定
- 2月29日 富士急の日
2と29を富士急（ふじきゅう）と読む語呂合わせから制定。富士急ハイランドが入園無料になる
- 3月21日 日南一本釣りかつおの日
水揚げ最盛期の3月と2（日南の「に」）にちなみ、一本釣りかつお（＝1）の語呂合わせ
- 5月14日 けん玉の日
長野県松本市の団体が制定。けん玉の原型が実用新案登録されたのが1919年5月14日
- 10月10日 亀田の柿の種の日
亀田製菓（新潟市）が制定。柿の種を「1」、ピーナツを「0」に見立てた
- 12月20日 こうふ開府の日
2019年の「こうふ開府500年」を機に、甲府市に事務局があった記念事業実行委員会が制定

※日本記念日協会のHP（<https://www.kinenbi.gr.jp/>）で、日付やキーワードで記念日を検索できる